

題 言

隧道工事編

近頃では隧道工事に關して特に研究的經驗を有する人も多くなつたが、隧道工事の全般に涉る事項を著述に纏めること云ふ事は實際容易な事でない。鐵道省の内にも隧道會議こと云ふものを時々開催して工事方法の研究的報告や討議をやつてをる而して部分的のものとしては有力な經驗を發表されてをるが、まだ全部の纏つたものはない、記者も此等の部分的の研究を各方面から集めて見度いこと思つてをるが未だ其機會に到らぬ。處が今回民間の技術家、西畑常氏が隧道工事編の出版をすること云ふ事を發表された、本書は同氏が大同電力其他で自ら經驗したもののノートから出來てをること云ふ事である。記者は以前氏の經驗を二三讀んだ事があるので大概その内容を想像する事が出来るが相當に参考になるものと思はれる。實地の經驗から出發した隧道書の乏しい時に本書が出版される事は、兎に角喜ばしい事である。記者は編者西畑氏なり、出版者なりに對して其壯舉を賀する次第である。

我國で造られた機械

我國の土木建築用の主要なる機械は殆んど歐米の輸入品であるか、又は其の模倣品のみであるが、輸入品は價が高く、模倣品は品が悪い。而して我國の現状は機械を使用する技術が歐米人に對して劣つてをるから、結局良い機械を使つて機械其者のみに頼り人間の技術を餘り當にしないこと云ふ状態である。

此邊の問題は我國技術上当面の大問題であるから記者も稿を改めて改善論を發表したい考であるが、兎に角現在では價格の高い外國品を使はねばならぬ状態にある。

處が空谷に蜚音を聞くが如く記者は過日一通の來信中から珍しい報に接した。それは移動砂利採掘機が日本に於て專賣特許を得て、然も今實用に供されてをること云ふ事である。此は確かに我國の技術界の一大進歩であり、誇である。記者は實地の運轉を見ないから詳細の事は知れぬが、之を完全に使ひこなすには餘程の努力が必要である。而して此種の機械の發達には設計者、製造者、使用者此の三者が共同努力に俟たねばならぬものであるから、記者は大に其點に關する共同研究を希望するものである。